

11 国際機関実務体験プログラム（育成・支援プログラム）

職員総括

横浜・みなとみらい地区の国際機関で100時間の実務体験を行うプログラムで、公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）と現在本学を含めた5大学との協働事業となっている。

国際協力や国際交流の実務を体験することにより、大学で習得した学問と実務機関での実践の融合をはかり、将来、国際性豊かな資質を持ち世界的な問題を視野に入れて活動することができる人材育成を目的とする。

実務体験は、夏期と春期に行われ、派遣国際機関は5大学で分けられ、2017年度夏期は、独立行政法人国際協力機構横浜国際センター（JICA 横浜）、国際熱帯木材機関（ITTO）、春期は国際連合食糧農業機関（FAO）、アジア太平洋都市間協力ネットワーク（CITYNET）へ1名ずつの派遣が本学の割り当てとなった。

学生たちが100時間実務体験を受けるなか、中間時期に国際機関受入れ担当者、派遣学生、派遣大学担当者の三者面談が行われ、それまでの体験から不安や問題点等があれば話し合い、よりよい体験ができるよう調整が行われる。また、すべての体験を終えた後、派遣された学生たちが、自分の体験についてパワーポイントでまとめ、YOKE 主催で報告会が行われる。

このプログラムに参加した学生たちが体験を終えた後、一回りも二回りも成長していることを実感する。

（職員 北野順子）

◇派遣学生からの報告

活動先	独立行政法人国際協力機構横浜国際センター（JICA 横浜）
活動期間	2017年8月7日（月）～9月8日（金）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・PCM（途上国開発の際に必要なとされるプロジェクト管理スキル）研修 ・業務補助 ・各種イベント補助 ・研修生サポート（宿泊施設の清掃等） ・図書館資料整理 ・研修オブザーブ

実施概要

2017年の夏休み期間中にJICA 横浜にて約1か月間の実務体験を行った。

JICA 横浜内において横浜市民向けに館内の企画展示や市内のイベント出展、外部の人に向けてJICA 横浜とは何をしているところなのかなどの説明を行う市民参加協力課の業務に主に携わらせていただいた。具体的には、10月開催予定の横浜国際フェスタの展示物作成や館内に併設されている海外移住資料館で行われたイベントの補助などである。

そのほかにも違う事業部の業務にも少々関わらせていただき、研修生の宿泊施設の清掃や海外からの研修生の研修にオブザーバーとして参加させていただいた。

感想・活動を通して得た学び

当初期待していた業務内容とはまったく違って、正直拍子抜けした部分があった。国際協力を一元的に担っている JICA だから毎日外国人と関わったり、外国語を使用したりするのかと思っていたが、そのような機会はほとんどなかった。少し残念な気持ちもあったが、そのような場で実務体験を行ったことで「国際協力」の本当の在り方や違う側面を学ぶことができた。外国人との交流だけが国際協力ではなく、国内にいる人や自分の身近な人に海外のことを正しく伝えることも国際協力には必要不可欠なことなのだと学ぶことができた。

また、期待していた業務内容と異なっていたものの自身から学ぼう、何かを得ようと行動できたことも自分の新たな能力の発見につながった。

今後に向けて

今回の国際機関で実務体験を行ったことによって、今まで「国際協力」の一側面しか見てきていなかったことに気づいた。今後本格的になっていく就職活動においても、事業などの一側面だけでなく他の側面・関わり方があることを理解しながら自分に合う、かつ納得できる就職先を見つけられるようにしていきたいと思う。また、期待していたものと違っていても学びを得ようとした自身の努力する姿勢も客観的に評価し、今後自分の能力として自信を持っていきたいと思った。

(国際学部国際学科)